再版三国志 梅

五

へ遠13
1885
5

へ13
1855
5

再刻高砂梅巻之五

栗杖亭鬼卵著

外山古市堂塔寺佛系の話

古往より外山に籠る小系仙の方へ連行屋らんと思ふて伊勢街道を急し向く往かく山田の町ふるゝ分け行屋敷に去年七九郎同屋にて系之より系良へ参りしるおきばの見町の吉兆屋ぶ系にて心に思ひ入るに人の沙系と水の流定まるれ船いろし去年山不にて旅宿せしに再び此不へ儀間しきけさけの身と成る来らんと家者の浮沈と定りも不定せるるぶふくもゝ祇園古市の書機へ参り亭主に思しき去ふ四ひ扶拔ときば今より此方にて勉らるべし後業

の女郎十五六人有しなかに引合一両日過ぎ出て女房と迷ひ
緒夏と教へる丈が三百匁名をとられ〳〵改店へ出しぬるを銭判る
客を脹ましおえん仙ゑ思ひ入れ新左衛門が墓参りしるきしの
と思ひそれば女房よりぬるを扱くまい不思議なる事なりその
方世話なしそのはれまて果大光寺へ義理へ仕ふらまと
来るも因縁とつくのあり忌日くく小八佛参りにゆきたる
しそれば出ゑ下女をつれ大光寺へ新左衛門が塚へ向ひかく
きをを志ばやしらは山上いれと見合はれと立退おを
と達へしに乃内まて生ぶ人を云ぐ〳〵拘法しを付ても森
生の宗旨を引替七九郎が不仁と思ひ出しるぐふくまて居
をうそ付まる下女海辺の近しさぐ〳〵つれ是迷ふく

之海りぬ寄小尚不中の郷て清左衛門と云者他の町人にし
が呉服商賣をし底い商ひよ任せ来る潮小日と暮しは
る市小歩と明をて小平扇屋のくふ別法度を つく家表
よ乃具小ゑるまて仕不生ず送り久ぶおえん彼小仙衛と明
大宝丸後楯小ふのまんと思ひしが左八生ま付ふくを高慢くの
大酒と好く奥仙落き不ふ乃巳也ふ者小大事と始まを去に
ふくばと一度て食逃しぶ打節六月の事るしが左八不汁中
せしへ来る十ふるい津の町馬傍の社祭ふて祇の祭詳集て毎年
来祐せしが皆と右連て来らんとつふ日以気と乱去ども来こそ
宜うるべしれ供せんくひしつをくふ十四日よりふ来るふ極ふく
英ふ傍ぶなの女郎二人扇屋女房其外六七人連少て皆〳〵百〳〵参る

ふ立かゝる元よりゝ身体の元八道〳〵金銀と惜まんをひゝる後ふ
其自出いたん方るくさ〳〵と無じて十六日爲後〳〵後るふ其
祥集暫しく代祭りの奏拍ふ鬼の扇ふ臺垂の爲と書る
を山のごく拍も奏と貴賤ゆ〳〵そひ調事出いしうゝみ白き玉
と紙ふ色白粉ふるゞ〳〵藥防と負ふうゝ和粉ふなぞら〳〵
家れ〳〵ゝじゝと指そのふとるにそおえん元八ふとこハいうる
ゆ祈よりもゝ弱るれば元八年ハ神まの伯母若ふて女神
うりいうる孔孔ひそも叶いざる事なゝと者る後神茶
ふて行〳〵ぞ日孔の大至一日も早く成就ゝ〳〵ゝ〳〵一んよ
行孔ゝ多書に津の町へ立ゆり十八日乃ゝ〳〵に古市へそ
〳〵ゝ〳〵孔

賀瑛若八ゞ作

扨とおえんハ外らびも爲後へ糸後ゝきれもゝて糸ゝ大
思ハ孔ゝ千も孔多ゝ忌日にゝうゝぬきび事至ゝ所至ゝか
男と速て大光寺へ後墓の掃除るゞゝて後ゝ百ゝ
ていわゞ百ゝ賀ふ雇ゝ若八ゝ男ふ約合るゝ若八祠を
うみ代祠ハ後ハ年時ゝるゞゝとゝ行るにおえんも百ゝうゝ
世ゝ張ゝ成て糸ゝと換換ゝくゝ百ゝ先白ハ若年
ハゝまゝくゝゝゝゝるゝ見きるゝゝうゝなるれ都ゝう行方
の出生ゝ色後ゝて出ゝる人と彩ゝ下ゝ多ゝ思ひかゝびゝとゝ行るに
若奴家ハ大坂の生ゝ出ゝ後ゝ後ゝ行るゝ〳〵ゝ者ゝゝゝゝ者八ゝ
と者て後ゝゝ香後新墓換の出娘ふおえんるゝふていおきやれ

庄八
みちんとはれて
かゝるとき
新酒の図

成人して孔孝こまごまもおさる新見寺りうしとやおえんたい出家
と思へるぐるむさとおあたらしかくさしうつぶいて育ちしかば
うくしなるまし私は陳小住居せし九兵衛とやうのあて大坂
を住ひ新しく設府小なさいく居ひしかしも主人と離れ会
教右衛の住場引ひ今在家に出家を持城人の子供もはさん
新左衛門様はは恩を受くべきくく志まへ設しかやかる
はは小成ひて等くはん細やま要しくは多の上は拠ぐう
ぐ及ばなぐくはは力も成てやしと表家後面と敬まくまべ
今い包と余り結も人殺ひふたの小成程新左衛門ぐ娘の元ん
まて結る今くぬとおぐ小て四とを延しかへいるば父もは年
は家空しく成ひひ毎上もぐるく果ひい家も別絶してのう

新左衛門様は様ひうくくはは山田小てお果大兄寺へ葬りくくしも長田
の墓を祭りせし帰りうり紙ひうくく人と勇引きん家良小多と
は去るば分はは不仕新しくまし家多は不便とうはて
ひまつまと源とえと差ひ差八強ひまき嘆ひし伝角は若多小ひう
はくんと両眼小源とうひさしうつぶいてひうは尭ちうくて
はは人強思右衛今かはひうすもはお使小のうはかしかやうんとはく新
しくやぶぞおえんんの内小思へ中ひうお侍の主人と勇引今根と葉
ひ死ぬる七九郎ぐぐきそのもひうる小兵ひうそのの紅人のくくと城ひる
ぐはいと新しき車小兄しくはは上はは娘と思ひはうすもかしかてはは
きひし家は途中又くく後くく麻屋は寄りひくはうきは拠設やうんと
立別きそる奴おえんは寄小ひうてうもは八ぐきんくの何嫁しく抜りひ

此男はいかめしくて見るの大をとも恐しく不と出るお淫せん女のこん
娘しく思ひうる扇屋の女房へ情うるものそんなにやさしく
袋無くなるべおえん女房ホトせう縁くものいたりるものふて私大坂
ふてん易せーるの先日逐一ゐるホて馬鹿へ糸り男私隣の九兵衛
ゑ出ふて呉今ハ長八ホトよ今在家ホ居いて長八ホトよ未
カしも廓へいんとトハ安ふハ新しき人もいるものそんに便と求いと
しくるふ女房笑て夫ハ者物ゐ人多り牡そ仁易殺さるべーと使ひ
ゐる一両日過く長八扇屋へ来りおえんふ逢不思儀ふ名案会ール
恨び者へくり女房ふ恨ーせ仁ホ話のかいたる未くと仁易ふ
下さきろーとす嘆ふホせーふおえんも話のかい恨び扇屋夫婦ふ引
会ーくきべ長八ホトくるハ要細の事ハおくくるの仁内うくるへ恨され

しーしまくくふの新仁ふ恩ホ新りしー私ハ外ふ是ようハ長八ふ
いん底ふ仁ハ新いうくふも長ホ便るき人ホ仁ハ不便ふ教ふと
流を流ーふ新くきべ扇屋夫婦も実義と感じ仁易クれたふ
人ふを中ふきて拘毎ハ戻ふくいたおくく向後ハ新歌図様ふ
ハ方へも来くきふくん能扶扶をるホ長八恨び出ふくく教ふと
おえんホも力をつけて立ゆくる

おえん宅の掘元再びるホ入張

おえんハ長八ハ滅を嫁ーふ打ハくべ大をと恨ーカふせんとホーく
くる盗屋長八をおくくホんいうケ日新入くくるが或日扇屋へて
起ひくるホ助見町刀屋を助ふつをふの来りて長八横ふ仁月に鉦
変ふーふ入るにハるふやと長八ふきべ先日私作ーー掘元

抜出すべしと思へども今日抜糸いたしたる出来
ず家敷よりなんとかしても見せ九郎兵の抱物兵まで盗ひ
ぜひ行方なきを遂んと腰ぬしき抱ちうと同じく其脇兵を
ろうと思ひのうる同夫ふち所おえん兵八よりりる抱抱
の出物兵ゝも出見せ下されよと云八ぶ若ひ梯茶の彩ら
いろいろきこなるに脇兵ゝとてなるよーうとしたるさうしたを
よふ兵てくくとうに香母家れを奏祇糸ゞ懐の国夫ちまい
不思議ふ思ひ抜放せいまうとうき茶一文字の名作ちうち縁
糸不思議ふまこと出物兵八日かゝ七九郎ゞ盗兵ーー兵の抱の内ちう
扱い七九郎も出意ふ位石ちるうんと行ちうを風情ふて扱く
接物宝さに腰の物や兵入出抱物抱ぬい格別ちう見い代ゝ出不抱ぬい

やと弱きい兵八いちうぬいてうりいい拾女に似合ぬ力の用ちくゝも
せちうゝや見い糸抜出ー抱ちう兵月山田へ行ふ旅人仲の男古
石具屋ー出物兵ゝ抱糸ち網吳ちうふ糸もを庫にうして
ちうに出ふ除ーーき石具ちう章ちいうとに変紙付るやう河
ひ石ちふ金一両ちうば網ふ出ーーと以旅人史い金ちゆ出ぬ糸
も見ち東国へ糸ち藤用ちつさにゆ人賣拂ぬ同今少ーーに了旨
下さちうーーちふ章ちい出ーと一文もお不中ちいふち旅人方ちく
金一両ち賣拂今清兵ゆーーゆく其紙ちて章ち人金弐両者
ーーゆち網ーちう抱ゆちうくちとちに中ち大金ふ抱拾ふー
ちうーちのふち柄糸もちごきえん若ーきゆ代人ち書出ーー黄
ちいく抜い七九郎東国へ下ちーーちやちんち思ひちち紙いち切ふて

おろん七九郎ふ
棄ぐるこ一重代の
刀手ゑ入る図

[illegible]具屋もゆりてるおえんを八小云るいとはるうるきはをんな
うるを今の出根元わるへは出傷うかさるまぐきやといてを八
きようとしてをを方根元を行よまるやるまいさをいはを家
事武士の娘むうさうをぐ雑義のようる続しき動ないて
是今をそい一刀をめくを細出屋を義の魂とを八傍小を出ます
をしきとやしをひと縁しやたいてをのわり結る元八大を恨
家腰をけしきも離ぐをしふ奉しかやうの拵宮小八義擬
るるり代服元をわど無をるべ其方小きはしは男人をりの
と貴ひうけらを沒しをしを事ぬるを性うをと家八出をを
をおえんふけるをるれいおえんハ事はの根元再びを小入をの歌
紂ろ隠おるりと天しも上るを地しをて恨び勇事大をるるはば

元八いおえんうを上をはを切くかやうの傍を拵を笑て恨ぶ
事やけるを西月小意表を某拵ぬを桜へ半しまいうを斗恨げんを元
をなをを思なを紙

おえん元八小寒をを明を歌の紙を知る紙

おえんハ事代の服元再びを小入恨ぶ事限ら拵を元八ハ縁
ぐ零落しを代を藤を人の城ハ此時をうを女房小も拵ける扇屋へ
打ふしい附屋おぐして妻をもをいしまを小をして賓を小ハ新
帝る貞を元をうおえん沒自ハ癖事をして一両日打休屋るよしをうを
も毎日を見回を事を業をぐをも学紙しを紙の服のををををうをを
も言ばより事を二階の新屋をあるを多をみ抱をれいまをえん
抱をとをおしを恨をを恨をを業ぐをるをぐを支をををぐををいつ

ぞやハ御咄し申さんと雖ども大切の事なれバつゝみかくさず是まで
ハ包せしなり織家又香は新左衛門校ハ隣家沼田頼庵に封ぜし火浣
布の宝を盗ませし也夫より方々と歎を募る頼庵其ハ不快にて病死す七九
郎が悪計ゆゑかく川竹の浮身と沈ミしと落もなく語りければ吾
八佛天して新く抱ゆるも云ざりしが揚く左校の事ふるや私とてもその
沼田頼庵ハ主人の歎と極らいへども此稀の身のよう力よ任せんとせめて
悴吉助ふかくも歎を結せんと道不の奴術の師匠へ幼少よりきいし
百姓の入ざる事と人の営ふを止めるに抹の一手と覚させしハ其心よ
此庵は其訳ハ私大坂へ發府へ参り今川家の家中岡村傳内より
人の方よ中間奉公致せしが主人かくより格別目をかけ呉らるゝ
よられ頼庵火浣布を持参り今川家へ抱らるゝ私を召し剣法と一入

ひ易主人傳内よ兄弟同然なりしが妻女と不義いたりしと疑ひ傳内殿
頼庵へ切りけられし強弟の頼庵抱の殺しも甘んぜ傳内殿を切
殺し其場より欠落いたしは私事ハ一年切の中間なりけれども主
人目をかけ呉られし也一入無念に存仍乗して傳内殿の讐に頼
と報ひ度存じども力不及ハ此まゝ婦縁異組身へ入をするけれバ私計
田向いたし片左右二バ私ならぬも主人の歎まては不らく此忰後の頼む所
でし打ちハ廊を抜出る忰を此供させ雲の果までも頼庵が行末を
尋ねでしと初くいたしければおえんを再び聲なく扱く其火浣
布いへよ出世せし頼庵又く發府へも欠落せしとや組バ弓削村に
住宅せしハ其後の事なるんにつきもせよかく此不にまつるがれてを
いたわさとまでくさ行かにもそれらを付かましとうまく志やし合

其歌ハゆゝしく聞ける日若ハたいゑくしく来りもえんよりきよんと二階より呼きるいなる私お推量も大坂ものみくるは八百屋の息子ハ家を出入致せしものるゞ先刻ハしい扱くしの紛ハ来らまぬものゝ大坂香は彩屋様隣より居らまして級衛の師匠江田新義度いゞせらまして思ひしよ関東小糸家の所代家天地三ゝ清様しゝ人の家来よりらまして名立流の士ゝ始日二見浦同伯州見ゝて今日ハ出立沈之賀ゝ庭まで新歌屋まで送りしうと味しと呼ようまて沈付給る云ゝ迫りけしして淫ゝ志ゝ欲い小糸家天地三ゝ清屋の家中ゝ武肖ばえい安堵ゝ侍ゝ欲の在家志ゝ上ハ一時ゝ早く出立接出国東へ結きゝと勇ゝ進んて拘給るゝおえんハ思ひ定よりゝ

エハ式拝しゝ地ゝ城ゝ立えの出新して欲の在家志ゝ事死ても志ゝぬ出思ゝ生ハ世ゝ和ゝ接出ゝ事ゝ合せて心新ゝ仕致しゝ氏の脇ゝと云ハゝ法しゝ是ゝ大切のゝのゝ出新とゝ云ぬぐゝ合其歌ハ沖りゝ

おえん矢張ゝ吾ハ進ゝと云ゝ

まゝゝおえんハ貯金ぬる金ゝ其外手道具ゝど片付ぬんして立進んと思案ゝ極め其歌嵐增ゝ表明まハ性ゝ云て皆ゝに暫ゝ間結衣裳ゝ云ゝ世ゝ様ゝ礼ゝ云ゝ法ゝ

ゝ来性ゝ賀ゝ賀ゝ角ゝるゝ日ゝ暮ゝ小訓漆の客是後や

ゝハ酒ゝ酔一ゝ安田ゝ小ゝ来ゝ酒宴ゝ及び一ゝも側ゝ離ゝ

付金ゝ心ゝ外ゝ多ハ内ゝ小思ひゝ法ゝ云ハ中ゝ

本町より孫こしき作と灯籠いろ其外そこ〳〵の打絞如見町両側より
出し様のか縮ちりいまゞ見抱ふい系〳〵ばやと見るに此間いかに地悪
くぞうさ〳〵も系〳〵未育より俗奴家をたきて見抱より出ろうんやえ
えのうろと若ゆまこばいうさ又今育ハ黒も強しゆ〳〵ろゞ〳〵紡て見
んと一社の男女八人連ゆ〳〵岡本町見抱より立ぬるより咲より遠いば
両側ハ一面に灯籠風流とそし貴殿山のゞ〳〵辞集とる事黙こば
おえんハ云初よりんゞけぬる事なまこば辞集のまゞれより紡んと
事配せしゞ小田の格を示そ様の外四合し其まゞまこえ来こ
ろ〳〵一さんよ大勢の中とおしゆ席ろ已ゞ位家をたよこ今在
家を八方〳〵立退ろう今在家の若八こようハ様の外暑し〳〵門ゆ〳〵
していろうしにおえんハきろうたまづきうけ来ろ嘘しや此家うて

ハうと息と切ていふよ若八と云ぬ欠落しゆひし事扇屋よても
見ゞしと仏易こさ私るまこば世示〳〵見ゞ〳〵来るハ不〳〵欲の在家を
ま〳〵上ハ紡ろう退ろうけ本懐と達しゆ〳〵えまゞて上此不〳〵及系
らせゞ〳〵梛田川の傍ふ私謂のろ俗此不〳〵と富の中より落しま
〳〵せ其上お侯ハいろ中ろもいるべし不仏と落しゆるしいと新し
くカとつけ有合なるよ元素恵飯のる助とお肩よふし欲中ほに
まこさまて梛田川さて急ぎ紡素のゞ〳〵扇屋ろう退よの西こ
若八方〳〵来ろおこゞろ紡方まこばり此不〳〵来ろし〳〵やと
中せし〳〵女房大よ驚こさしふとして次〳〵てこゝ〳〵ばまを
抜のる松坂〳〵来ろいまゞ泊らまこば小よれん寄のうこ此紡ばを
と行きうこさ風情の挟抱せしゞ鬼角ばやし〳〵くハろりひゞ〳〵

ゑ付し女もうさを色〻紙殘し遠くゆきぢをまけして遁ひ
んと引〻といひやうし事ともうくて若八親子はおそん
と名るよ糸其教授ぢと橋田川のうき忠ゑ所とつゝ場のうち〻
つまて行荒悟と必しうきこゝ忠ゑ所中中し拾不い術及より余
程引ぢ汗よ村四うれゝ中〻くよまうる事ふいたゝび氣日よ
ても遁安ゐるゞ〻いとん能ゑ合ゑうよ若八親子ゝ能〻教ゑ
てよこそ糸うんと眼ゑして立海ゑる

木辻刀屋清七が紙

流元〻家る扱を木辻の刀屋清七い外山ゑ弄ゑ佛法の測よ
沉ゑ其上欠落せんと約束せ一女のん稽う大坂〻仕智に行〻
と図て怒り十二ゑようまゞも論方うく若父義ゑ汗則

四〻下ゑもうみをゝ家ゑ一ッよ佛法ゑ引ゑ欠落せんとんゝ
ゑるゞさうよくも外山めゝづよいるも義ゝゞ眼とゝん
ゑのと木辻の廊よ来をゝども掛ゝう宮ゑをゝの云
あゝもうゝゝゞひとりの女房清七が独とひさんゑを和〻陸
行外山がゝひ垂ゝよ紙垂ゑれゝもゞうて欠落を仕換じ
押めゝらをゝ事を悟りいまゝうゝも時いづゝ〻仕ゑよ行〻
と図よこの女房義〻よ行さんとふく限ゝゝゞわゝも
ゝゝゞゝと掛ゞうよ彼ゞゝゑゝの大をうゝゝせんと約して
北ゝゝにうゝて男ゑの志ゝふゝゞと和〻極悪ゑ和紙義ゑ
見るも終乃路用と腰よ付ゝゞ駿河の二十町〻まうゝ良の木辻
よう仕智の女房いるゝうゝと義をゝゞこの和いよゞゝ女房い上地よ

扇屋のまゝ代
善八方へゆゑんを尋ね来る図

むさ不やうなく江戸子にては斯る江戸深川通ひも上手き女郎
多くあれしかるに清七ハつねに家にゆけハ世なれしき心がらバ定て
江戸へ登りハせしにちがひ有まじ江戸へ下りけんとの事
ゆくゆくさに富士川清水まで尋ねられバ給ひけるに蒲
原宿にて海かりされど未だ程極里とて今こそうち臨
用のあれバく成り川まへよしめかき悦然として行かける
に蓼宿のとまりに上流の士これも川よりぬらさき逗留し
ゐるが清七が賂用に盗まれたる衣類をとりかへしとハ彼が風姿
まや思いきなん其元ハ何やらの人にて何国へ赴かるや只今か
けなハまバ宿へ来りて衣類をとりかへしたる定て川留
故かんぎるべし贐しく宵ぬ人と見つけけり何商売とも

さうでやと懇に誘ひ出しハ清七ハ其時より脇差を申し受けて候に身
き身の上にハさぞ私ハ南部江戸にて刀鍛冶をそれにてはさんばいしかり身
持放蕩出ぬく然じく落ふれ衣類を質代にし宿銭も払ひ
身のうへにまつわりゆしあるさぐゝて終るに此士耳をそば
立刀鍛冶とハ耳よりのことかな其ハお別家の家来笠
原新六とふ者のかう今所強別今川家の重宝蜘蛛切丸の太
刀を主人氏政許見給ふ家臣ハ其写しをとの事へ下る途中所
存じて今川家へ使者にて持ちて太刀ハ与かれんど借用して持ちかえ
らる写しときたへなさき鍛冶はつけれバ心をいつて佃ゆる思ハば
其元に面会もおれし事の嬉しきさまにその昨太刀するきばや
焼刃まで取つけかかる事あるにきやと尋ねるに清七くはしく語

とさげ和親の為系の則圖とやて迫圖こ人も新りし瀧治こ
ぬざん〳〵ども実なのこうこし中〳〵ゆけ合ト高度出来
ト事いうけ合ごくは志うしし焼又を外侍文のかい親も
ようり落つて〳〵まうりうりと者のまこと言〳〵うた笠系新六
れ恐ってさ右乃一云ろこうこうこうこうこうこうこうこうこ太の左刀日限
とそつて借用せし事うまび打消ってうまこうまこ瀧治を
詮議せんこ日うご紙法いやし写しもやまにこさんいか
まこうし其元すこうまこいろ中ようけうまし小写し乗る
るうこいこうこよき瀧治をこぶこよごし打出さんごし打
をお列〳〵同名〳〵てうこ人〳〵ト行ごし〳〵そしまでい拙右紙
こうこうこの進ごこごし〳〵おりこの外の一云こ大こ力を落

こう者ごくこさ作す尺きこのかいう中〳〵も打ア中なる
こうかのと思右ひこうこ〳〵一日二日こうこう川もけき笠
系同名こて お列〳〵こう彩六今川家五言の絵こき瀧治一
人や〳〵つまけよ〳〵ゆこうこれい氏政大こ恨びうこい波れを刀を
行見けるこ滅こ赤代の名作ごれい称矢のけまうこうこく
太の写〳〵清七〳〵作付ら〳〵こうる清七ごこ〳〵家美年
こう遠不こうこ侍う瀧治乃事ごこうけごこうこうこ〳〵
せし事後悔のこうこうこうこ〳〵ごこ刑とこうこ切ごこ時ハ
家名の仙辱このこうこ刀のこうこ侍技へこうけ亜さ
こいこう神仏こいのこに志ごこ家生国大和国添九郎狐
注著こ条の小瀧治こおごこうこうこ刑とこうこ

関守が一家も力をつくし主と一所に討死し関八州の威
勢にて鉄炮の数おびたゞしく打よせ城上の鉄を撰
びつゝ七日余して打ちもとげしも神明の加護ますや又清
七が重のつとむる時節もやすからず出て其名残をとゞめし其
後かくれバ清七ハ義なくし此地なるがゆへとて此所にて足を留
て義理ある親子もむつまじく是までの不孝の詫せんと其たびの
一所にむつまじくおえんが事ハさりとての私事なりば身の上
ることそ一生の本意とそれよりハ日数忠勤をつくしけれバ主
しう主の氏政も其心ざし厚く感じ追々加恩ある程なき世に
めしかへ扨清七ふしとおりひぬるハ家来も良にて若菜則国
が倅にて今若菜清七と名乗ども定て若菜ハ姓にて氏のる

きよへなるまじ六ッにて別れし乳母が遣せし其守袋を
大切のものなりと身をはなさず開く事なかれと申せしかど
今もなほ身を離さず大切に首にかけ今まで
定て家名字ハ其うちにあるべしと守の袋をひらく
に家系ともおぼしき封じたる封じを開けバ書付と臍の緒
泉州堺蓮池乃嫡流蓮池右近将清が勤とりて又ひとつ
の色に拾貝の形ちありて其色に香ハ新たなり娘おえん名号の下
なりし此貝と合して婚姻をなしければ清七是を見て師天し
が浪人の身の上を語るに姓名を知りてなる不思議につきぬ縁と
扨ハ木辻にて身をおとし和山ハ家いひなづけの女なりしが彼
て彼是よ夫婦となりし事よ知りしいまの氏政公の高恩をかうむり

女と尋ぬべきかたもなく男の魂ひとりさまよひ歩事ハ時々もあんと日数忠勤を励しゝ

再開高堂梅巻之立

鬼卵作
夕霧書替文章　全五冊
北雲画

岡田玉山画
繪本玉藻譚　全五冊

馬図画
在原艸紙　全六冊

おまつ幸作
戀夢艦　前篇三冊　後篇五冊

速水春暁齋画
繪本一休譚　全六冊

馬図画
和漢の染彩　全五冊
一名菊一文字

速水春暁齋画
一休諸国記　全六冊

馬図画
蛍狩宇治奇聞　全六冊